

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第 22 期 146 号

会報



総主題

「キリストが望んでおられる」 喜び・祈り・感謝

2013. 4. 15

発行 日本福音ルーテル
教会女性会連盟

〒169-0072 東京都新宿区
大久保 1-14-14

発行者 加藤 和子
編集者 寺嶋 文世
印刷 平山印刷出版

主題聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」
テサロニケの信徒への手紙一 5. 16 ~ 18

あなたへ



キリストが望んでおられること

デンマーク牧場福祉会 こひつじ診療所

院長 武井 陽一

第一テサロニケ書は、パウロが最初に記した手紙であり、新約聖書で一番初め（紀元50年頃）の書と言われます。この手紙の前半に、迫害などの苦難の中にあつて、まるで孤児のように引き離されていったテサロニケの兄弟たちに再び顔と顔を合わせて具体的な交わりを求めたいというパウロの切なる願いが記されています（2章17節）。パウロは彼らと心ではいっつもつながっており、彼らを「主イエスが来られるとき、その御前で、あなたがたこそが、私の希望、喜び、誇るべき冠です」（19節）と言い切っています。パウロはこの手紙の結びに「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんな事にも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」と記しました。

かつて閉鎖的な利己心や党派心（ロマ書2章5節）の中でおのれと律法を誇り、キリスト者を迫害する者であったパウロが、イエスと出合い、180度変わり、キリストの僕として喜びに溢れる者とされ、神の栄光にあずかる希望を誇り、迫害される立場にかわって苦難をも誇る者とされました（ロマ書5章2、3）。主にある喜びの中で、今は会えずにお互いに苦難を担いあっている兄弟たちに向けて、これこそキリストが望んでおられることとして「いつも喜び、祈り、感謝しなさい」とパウロは勧めました。

私たちも、いつも兄弟たちと顔をあわせて礼拝にあずかることがゆるされているわけではありません。病を負い、年を重ねる中で、独り神を仰がざるをえなくなる事があります。遠く離れて苦闘されている兄弟もいます。施設や牧場の働きを日々荷なっている兄弟たちのことも覚えます。聖日ごとに教会に出席できないが、日々自分の体を神に喜ばれる聖なるいけにえとして捧げ、神に礼拝している（ロマ書12章1節）兄弟たちに心より感謝し、共に喜び、祈りあいつつ歩みたいと願っています。